

【論点2】環境の変化を踏まえた青年の船交流事業の在り方について

【主な論点】

1. 船事業の意義
2. (船事業を存続させる場合に) 船事業で中心に置くべき内容・プログラム
3. (船事業を存続させる場合に) 考えられる船事業の実施方法
4. 公費以外のリソースの活用について
5. その他(参加者構成, 他事業との役割分担の見直し等)

1. 船事業の意義

- 船舶を用いた青年国際交流事業の固有の意義としてどのようなものがあるか。
- 「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業それぞれで中核となる価値をどのように考えるか。
それらの目的・意義と船舶を用いることはどのような関係にあるか。

(参考1) 青年国際交流事業で船を用いる意義(資料1-2)

(参考2) 青年の船交流事業について(資料1-3)

(参考3) 令和7年度事業日程(資料2-1)及び参加青年アンケート(資料2-2)【追加資料】

2. (船事業を存続させる場合に) 船事業で中心に置くべき内容・プログラム

- 「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業で中核となる価値を実現するため、それぞれ事業の中心に置くべき内容・プログラムは何か。

(参考1) 青年の船交流事業について (資料1-3)

(参考2) 令和7年度事業日程 (資料2-1) 及び参加青年アンケート (資料2-2) 【追加資料】

(参考3) 「青年国際交流事業の在り方検討会報告書」(参考資料2) (抜粋)

(新たなプログラムの方向性)

- ・ 意欲の高い青年の参加に向けた「プログラムの魅力向上」, 「仕事・学業との両立が可能なプログラムの設計」, 「広報の強化, 選考の充実, 多様性重視枠の創設」
- ・ 「船上での共同生活」と「実践の場」を組み合わせたプログラム構成
- ・ 長期の閉鎖空間によるリスクを回避
- ・ 上記の観点から, 船上で共同生活しながら, 国内の複数の地域に入って社会実践活動を行う形式により実施
- ・ デジタルなど新たな技術も活用しながら, チームビルディングなどのオンライン交流を充実
- ・ 地域の社会実践活動には, 地方公共団体や同窓会組織 (IYEO) と積極的に連携
- ・ その他, 事業強化の視点を踏まえた評価を行い, 運営体制の充実も図りながら, 事業の充実を図る

(別紙) 新プログラムのイメージ (参考資料1 参照)

(参考4) 令和4年 R4 検討会報告書「(別紙) 新プログラムのイメージ」の実施状況 (資料2-3) 【追加資料】

3. (船事業を存続させる場合に) 考えられる船事業の実施方法

- 「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業それぞれにおいて、①中核となる目的・意義、②中心に置くべき内容・プログラム、③事業の安定的・継続的实施、の観点から、各実施方法はどのように評価できるか。

各実施方法にデメリットや課題が想定される場合、どのような運用の改善が考えられるか。

(参考1) 船の使用を継続する場合に考えられる事業実施方法の比較(資料 1-4)

4. 公費以外のリソースの活用について

- 事業の安定的・継続実施の観点から「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業のそれぞれについて、公費以外のリソースの活用についてどう考えるか。

(参考1) 公費以外のリソースとして指摘されるものの例

- ・外国政府の協力
 - ※ 「東南アジア青年の船」事業においては、現在、寄港国政府が寄港地プログラムを企画し、経費を負担
- ・民間（企業、OB等。海外を含む。）の協力・協賛
- ・参加青年の参加費
 - ※ 船事業においては、日本人参加青年が30万円程度を参加費として支払い（経済的理由による免除の仕組みあり）。

5. その他

- 事業の中核に据えるべき目的・意義に照らし、「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業それぞれの参加者構成等をどう考えるか（日本青年の割合、「世界青年の船」事業の交流対象国選定の考え方等）。

（参考1）青年の船交流事業について（資料1-3）

（以上）